

令和〇年学力検査

全日制課程

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐこの表紙に受検番号を書きなさい。続いて、解答用紙に氏名と受検番号を書き、受検番号についてはマーク欄も塗りつぶしなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙のマーク欄を塗りつぶしなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、解答することをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号

第

番

国語

— 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

(内山節 うちやまたかし 『自由論——自然と人間のゆらぎの中で』による)

(注) ○ ①②は段落符号である。

○ 迎合||自分の考えを曲げてでも、他人の意向や世の風潮に調子を合わせることを。

○ 通俗的な||誰にでもわかりやすいさま。

○ 封建主義の時代||ここでは、主従関係を社会の基盤としていた時代のこと。

○ 共同体時代||ここでは、人々が血縁関係や住む土地のつながりの中で暮らしていた時代のこと。

○ 媒介||二つのもの間をとりもつもの。

(一) 「A」、 「B」にあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア 「A」それゆえ 「B」たとえば

イ 「A」なぜなら 「B」たとえば

ウ 「A」それゆえ 「B」そして

エ 「A」なぜなら 「B」そして

(二) ①にあてはまる最も適当なことばを、次のアからエまでの中から選びなさい。

ア 大局的な イ 一方的な ウ 楽観的な エ 急進的な

(三) ②人間の精神を不自由にしていく芽の具体例として適当でないものを、次のアからエまでのの中から一つ選びなさい。

ア 子供の頃に覚えたダーウインの進化論を真理だと思ひこむこと

イ 封建主義時代という認識方法で共同体時代を悲惨なものと思ひこむこと

ウ 新しい中世社会論や江戸時代論も一つの認識にすぎないと考えること

エ 欧米の社会を基準として非欧米地域を未開の地と認識すること

(四) 次の文章は、ある生徒が第五段落と第六段落の内容をまとめたものである。この文章に対する評価として適当でないものを、あとのアからエまでのの中から二つ選びなさい。

人間の精神は言葉を用いて思考している。また、言葉には時代がもたらした特有の意味がこめられている。そのため、言葉を用いて思考する人間の精神は、その言葉をつくりだした時代の考え方に支配される可能性がある。したがって、その支配に挑み、自由な精神を得ようとしつづけるところに、人間の精神の自由さがある。

ア 人間の精神は言葉を用いて思考していることを述べている。

イ 言葉の意味がその時代の考え方を反映していることを述べている。

ウ 人間の精神がその時代の考え方をくりだすことを述べている。

エ くり返し書かれている筆者の主張を一つにまとめている。

オ 原因と結果の関係が明確になっている。

カ 具体例の中からわかりやすいものを選んでいる。

(五) 次のアからエまでのの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選びなさい。

ア 常識とされる考えを疑い、ものごとの真理や本質を捉えることができるれば、独自の意見を創造する自由な精神を得たことになる。

イ 自分の認識を常に疑うことで、批判的精神を身につけることができる一方、自由な精神を失う可能性があることに留意すべきである。

ウ 自由な精神を得るためには、健全な批判精神をもつだけでなく、自分の認識は誤りではないかと常に省みることが重要である。

エ 無意識の世界では、人間の自由な精神は言葉を介さない方法によってものごとを認識し、他者と感動を共有することができる。

(六) この文章の論の進め方の特徴として最も適当なものを、次のアから

オまでの中から選びなさい。

ア 最初に結論を述べたあと、その根拠となる複数の具体例を示すことで、自らの主張をわかりやすく伝えようとしている。

イ 一般に認められている考えを紹介したのちに、自分の考えと共通する意見を提示し、続いて述べる自らの考えの妥当性を高めている。

ウ ささまざまな研究分野の文章を引用した上で、自らの考えを述べ、想定される反論の問題点を示すことで説得力を強めている。

エ 中心となる問題を提起したのちに、自身の経験を交えたさまざまな例を挙げながら、自らの考えを掘り下げている。

オ はじめに仮説を立てたあと、身近な事例に基づいて検証を進めることで、自らの考えの客観性と確かさを明らかにしている。

二 一次の(一)から(三)までの問いに答えなさい。

(一) 次の文中の傍線部とは異なる意味で用いられている漢字を含むものを、あとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

波間に小舟が漂っている。

ア 漂流 イ 漂白 ウ 漂着 エ 漂泊

(二) 次の文中の傍線部①、②に用いる漢字として正しいものを、それぞれあとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

過去十年間の留学生のゾウ^①ゲン^②を調べる。

① ア 蔵 イ 造 ウ 像 エ 増

② ア 現 イ 減 ウ 幻 エ 限

(三) 次の文中の「③」にあてはまる最も適当なことを、あとのアからエまでの中から選びなさい。

彼のすばらしい演奏は、「③」にできるものではない。

ア 一朝一夕 イ 一喜一憂 ウ 一長一短 エ 一進一退

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

著作権の関係上、文章は表示しておりません。

(新田次郎『銀嶺の人』による)

- (注)
- 1 7は段落符号である。
 - 卷雲けんうん|| 高い空にほうきで掃いたようにかかる白雲。
 - カール|| 巻まいていること。
 - 佐久間博さくまひろし|| 美佐子の所属する山岳会の主宰者。
 - ハーケン|| 岩登りの際、岩の割れ目に打ち込んで手がかりや足がかりにする金具。
 - トするぼく|| うらなう。
 - 内弟子|| 師匠の家に住み込んで教えを受ける弟子。
 - チビ|| 美佐子の飼っている犬の名。
 - 怒濤れいとう|| 激しく荒れる大波。
 - 金牌きんぱい|| 賞として与えられる金色の盾やメダル。

(一) 本文中の「A」、「B」にあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のAからEまでのの中から選びなさい。

A 「A」沈んで

「B」甘えて

I 「A」沈んで

「B」反発して

U 「A」張りつめて

「B」反発して

E 「A」張りつめて

「B」甘えて

(二) 美佐子と「山」とのかかわりについて説明したものととして最も適当なものを、次のAからEまでのの中から選びなさい。

A 新しい文様を生み出すのは難しく、行き詰まってどうしようもなくなったとき、山という雄大な自然は現実から逃避できる場所として心のよりどころになっている。

I 師の求める作品の水準は高く、文様を完成させる自信はもてないが、文様を完成させることができれば未登攀の岩壁を登ることができるときの気がしている。

U 未知の世界に挑む難しさを思い、他人のまねをすることなく新しい文様を創作する行為と、誰も登ったことのないルートで岩壁を登る行為を重ね合わせている。

E 新しい文様のヒントは意外な場所に埋もれており、常に探しながら行動していれば、山の景色の中から手がかりが得られる瞬間があると確信している。

(三) 怒った顔① とあるが、美佐子が提示した文様を見たときの松磬の心情として最も適当なものを、次のAからEまでのの中から選びなさい。

A 美佐子を書いた図案は、自分が教えた技術を生かしながらもそれを超越するものであったため、妬みを感じている。

I 美佐子を書いた図案は、予想をはるかに上まわる独創的で優れたものであったため、衝撃を覚えている。

U 美佐子を書いた図案は、屈輪文様の伝統を無視したかなり斬新なものであったため、不満を感じている。

E 美佐子を書いた図案は、師の自分を試そうとする意図が感じられるものであったため、腹立たしさを覚えている。

(四) 松磬の顔に複雑な色が動いた② とあるが、その説明として最も適当なものを、次のAからEまでのの中から選びなさい。

A 弟子が自分を越えてさらに高みへと成長していくことは、師としてかけがえのない喜びではあるが、一方で自分がかかわれることはもうないと感じている。

I 弟子が金牌をとることができれば、師として誇らしいことだが、一方で伝統を重んじる世界で弟子の文様は評価されない可能性があることを恐れている。

U 弟子が自分の望んだとおりに成長を遂げ、師として大変満足しているが、一方で弟子が今後も同じ水準の作品を彫り続けることができるか心配している。

E 弟子がこれから鎌倉彫を変えていくことは間違いなく、師として心から期待しているが、一方で鎌倉彫の伝統が受け継がれないのではないかという思いがある。

(五)

次のアからオは、この文章を読んだ生徒五人が、意見を述べ合ったものである。その内容が本文に書かれていないことを含むものを二つ選びなさい。

ア (Aさん)

美佐子は真面目でひたむきな、妥協を許さない性格だと思います。自分の気持ちをことばにして表すことはありませんが、師の松磬から与えられた難しい課題に対して、粘り強く取り組む芯の強さを感じます。

イ (Bさん)

文様の案がなかなか定まらない美佐子は、趣味の岩壁登攀をこのまま続けるべきか葛藤したのではないでしょう。難しい岩壁に一心に向き合うことが、かえってつらい現実を思い出させることになるからです。

ウ (Cさん)

師の松磬は美佐子の新しい発想を求めようとする性格をよく理解しており、自主性を重んじ、完成するまでじっと待っています。創作のヒントは与えるものの、終始美佐子を温かく見守るという姿勢を貫いています。

エ (Dさん)

美佐子は、創作のヒントが得られると思つて旅先の鎌倉の海岸を訪れたことにより、満足のいく文様を完成させることができました。彼女が全ての時間を文様の創作にささげてきた成果が実つたのだと思います。

オ (Eさん)

美佐子の文様は、対照的なものが組み合わさつた革新的なデザインで、着想を得た景色とともにその文様が目に浮かぶようです。師の松磬もその文様に、新しさだけでなく、高い次元の芸術性を見たのだと思います。

四 次の漢文（書き下し文）を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。（本文の……の左側は現代語訳です。）

宓子、宣父を治むること三年、而して巫馬期、綈衣短褐し、容貌を

易へ、往きて化を觀る。夜漁する者の魚を得て之を積つるを見、巫馬期

問ひて曰はく、「凡そ子の魚を為す所は、得んと欲すればなり。今得

て之を積つるは何ぞや。」と。漁する者、對へて曰はく、「宓子は人の

小魚を取るを欲せざるなり。得る所の者は小魚なり。是を以て之を積

つ。」と。巫馬期、歸りて以て孔子に報じて曰はく、「宓子の徳至れ

り。人の闇行するに、嚴刑の其の側に在ること有るがごとからしむ。

宓子、何を以て此に至れるか。」と。孔子曰はく、「丘、嘗て之に問ふ

に治を以てす。言ひて曰はく、『此に誠ある者は、彼に刑はる。』と。

宓子、必ず此の術を行ふならん。」と。

(注) ○宓子、巫馬期ともに、孔子の弟子。
○宣父魯の国の地名。 ○丘孔子の名。

(一) 波線部アからエまでの中から、主語が觀るの主語と同じものを一つ選びなさい。

(二) 漁する者の魚を得て之を積つる とあるが、漁師がこのような行動をとつた理由として最も適当なものを、次のアからエまでの中から選

(三) 孔子に報じて とあるが、報告とともに巫馬期が孔子に尋ねたことは何か。その内容として最も適当なものを、次のアからエまでの中から

(四) 次のアからエまでの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選びなさい。

ア 巫馬期は、宓子の政治の進め方に感心して自らの政治を改めた。

イ 宓子は、為政者にまごころがあれば民に伝わりと考えていた。

ウ 孔子は、刑罰で民を支配する政治は間違っていると主張した。

エ 宣父の人々は、厳しい刑罰におびえながら生活をしていた。

(問題はこれで終わりです。)